

2018年度(2019年3月期) 第2四半期決算説明会

2018年10月30日

株式会社アドバンテスト

アジェンダ

■ 2018年度第2四半期決算報告

常務執行役員 藤田 敦司

■ 2018年度 事業見通し

代表取締役 兼 執行役員社長 吉田 芳明

ADVANTEST.

四半期業績推移

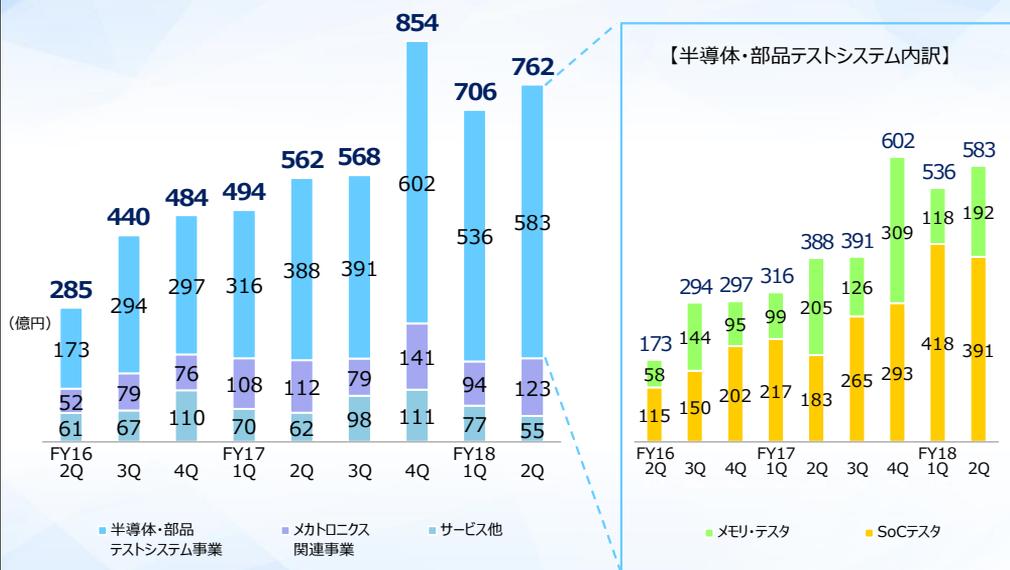
	FY17				FY18		前期比		前年同期比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	増加額	増加率	増加額	増加率
受注高	494	562	568	854	706	762	55	7.8%	199	35.5%
売上高	407	477	509	679	709	727	17	2.4%	249	52.2%
売上総利益	206	249	232	379	382	389	7	1.9%	140	56.4%
売上総利益率	50.6%	52.1%	45.8%	55.7%	53.9%	53.6%	▲0.3pts		1.5pts	
営業利益	22	52	32	139	158	180	21	13.4%	128	3.5倍
営業利益率	5.5%	10.9%	6.4%	20.4%	22.3%	24.7%	2.4pts		13.8pts	
税引前四半期利益	16	48	34	145	165	186	20	12.2%	138	3.9倍
四半期利益	10	39	26	106	139	162	24	17.0%	123	4.1倍
四半期利益率	2.4%	8.2%	5.0%	15.6%	19.6%	22.4%	2.8pts		14.2pts	
IFRS第15号適用に伴う 期首受注残の調整					▲30					
受注残	509	594	653	828	795	830	35	4.4%	236	39.7%
為替レート	1米ドル 1ユーロ	112円 121円	111円 128円	112円 132円	111円 134円	108円 131円	111円 129円	3円 円安 2円 円高	0円 円高 1円 円安	

ADVANTEST.

○ 2018年度第2四半期の業績概要

- 受注高 前期比 7.8%増 前年同期比 35.5%増 762億円
- 売上高 前期比 2.4%増 前年同期比 52.2%増 727億円
- 営業利益 前期比 13.4%増 前年同期比 3.5倍 180億円
- 四半期利益 前期比 17.0%増 前年同期比 4.1倍 162億円
- 当社の顧客のテスト投資意欲に大きな変動はなく、良好な事業環境が継続しました。
- 半導体の高性能化に伴ってテストタイムが長時間化傾向にあることで、当初の想定を上回った着地となりました。
- 高水準な受注が続いたこと、部品調達状況の改善により、5四半期連続の増収、3四半期連続の営業利益率 20%台を達成しました。
- 四半期利益率は過去最高水準の数字です。

四半期受注高 事業セグメント別



*合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

ADVANTEST.

2018/10/30

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

4

○ 2018年度第2四半期の事業別受注高

○ 半導体・部品テストシステム事業

- 前期比 8.9%増 583億円
- SoCテストは、高機能化が進んでいるアプリケーション・プロセッサ向け、ディスプレイ・ドライバIC向けが受注の中心となりました。
- メモリ・テストは、主にDRAM向けで、受注が再拡大しました。

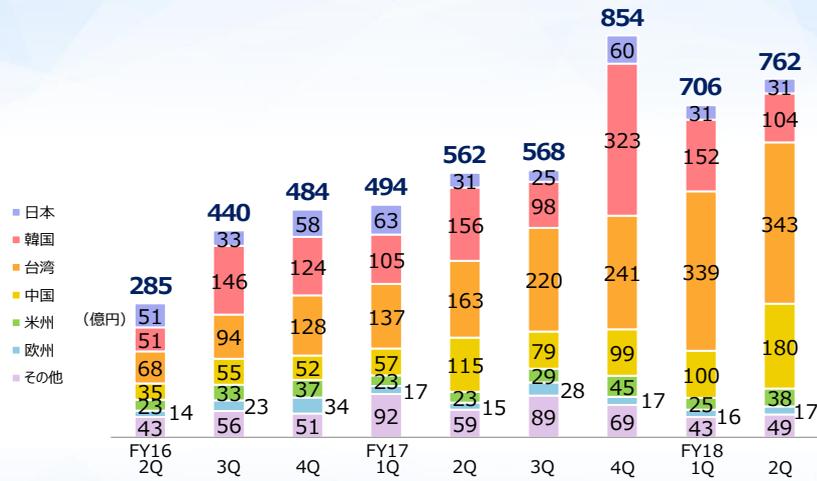
○ メカトロニクス関連事業

- 前期比 32.0%増 123億円
- メモリ・テストと連動し、デバイス・インタフェース、テスト・ハンドラの受注が伸びました。

○ サービス他

- 前期比 29.1%減 55億円
- 保守契約更新の季節性の減少と、中古ビジネスの不振によるものです。

四半期受注高 地域(出荷先)別

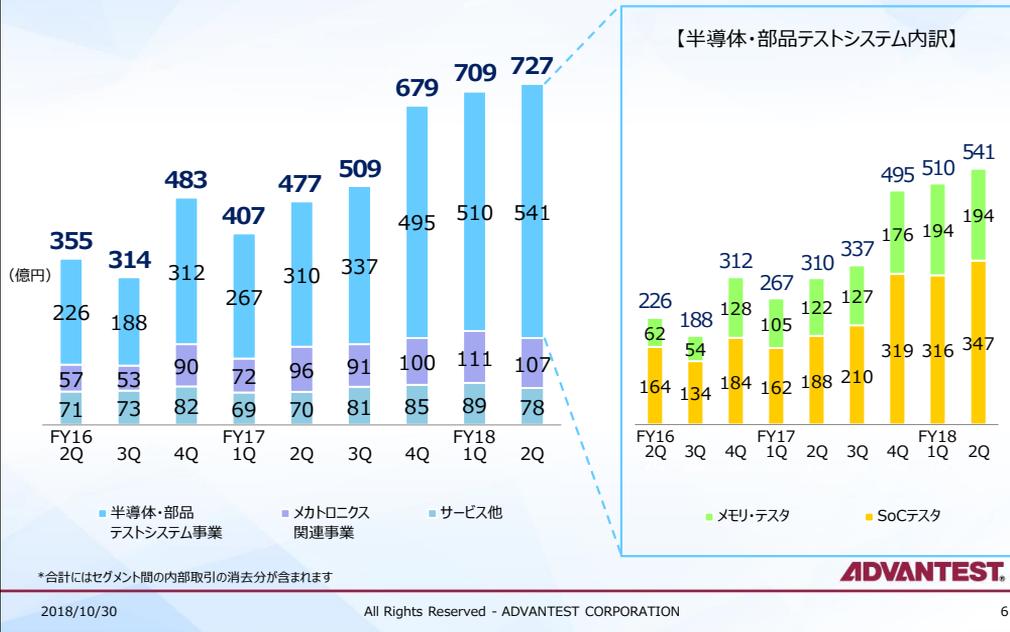


ADVANTEST.

○ 2018年度第2四半期の地域別受注高

- 韓国 104億円
 第1四半期に受注好調だったディスプレイ・ドライバIC向け、イメージ・センサ向けで反動減。メモリ・テストも若干減でした。
- 台湾 343億円
 SoCテスト、メモリ・テストどちらも高水準でした。
- 中国 180億円
 ディ스플레이・ドライバIC用テスト、メモリ・テストが増加しました。

四半期売上高 事業セグメント別



○ 2018年度第2四半期の事業別売上高

○ 半導体・部品テストシステム事業

- 前期比 6.2%増 541億円
- SoCテストは全般的に好調で、過去最高の四半期売上高です。
- メモリ・テストも、前期と同額の高原状態が続きました。
- 部品調達問題の改善が進み、売上高を一段伸ばすことができました。

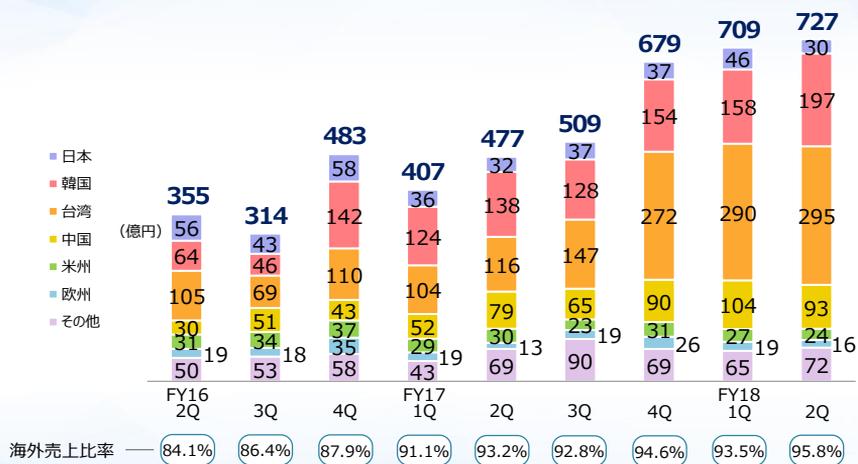
○ メカトロニクス関連事業

- 前期比 3.6%減 107億円

○ サービス他

- 前期比 11.9%減 78億円
- テスタ需要活況により市中の中古品が枯渇し、中古品販売が落ち込みました。

四半期売上高 地域(出荷先)別

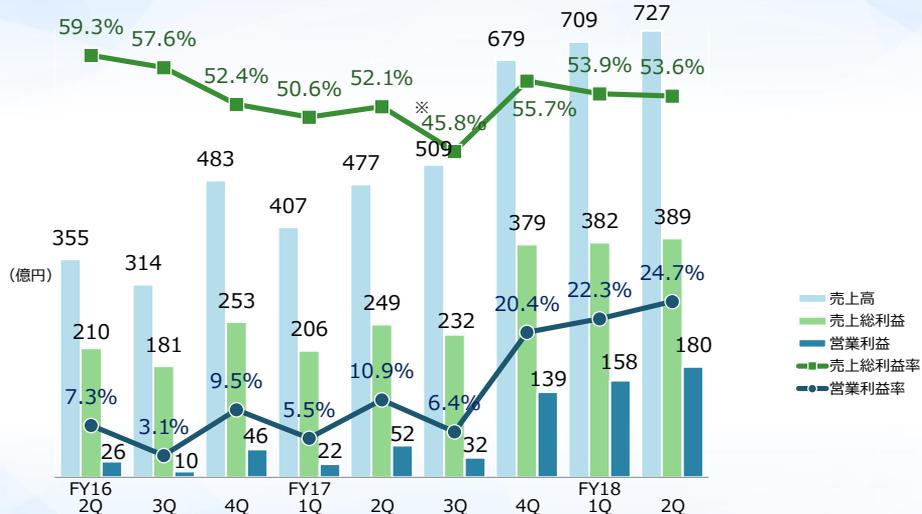


ADVANTEST.

○ 2018年度第2四半期の地域別売上高

- 半導体の量産工程が集積するアジアを中心に高水準な売上が継続しました。
- その結果、海外売上比率は 95.8%、これも過去最高の水準です。

売上高/売上総利益/営業利益



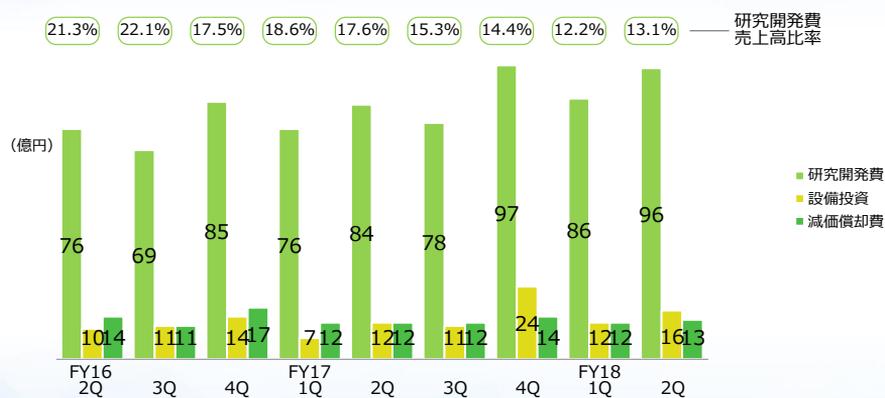
※FY17 3Qにナノテクノロジー事業の棚卸資産評価損(33億円)を計上しています。
この評価損影響を除いたFY17 3Qの売上総利益率は、52.3%となります。

ADVANTEST.

○ 2018年度第2四半期の営業利益

- 売上総利益率 前期並み 53.6%
- 販管費等 売上増にあっても販管費の伸びを抑えて 209億円
- 営業利益 180億円
- 営業利益率 前期比 2.4ポイント改善 24.7%

研究開発費/設備投資/減価償却費



ADVANTEST.

2018/10/30

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

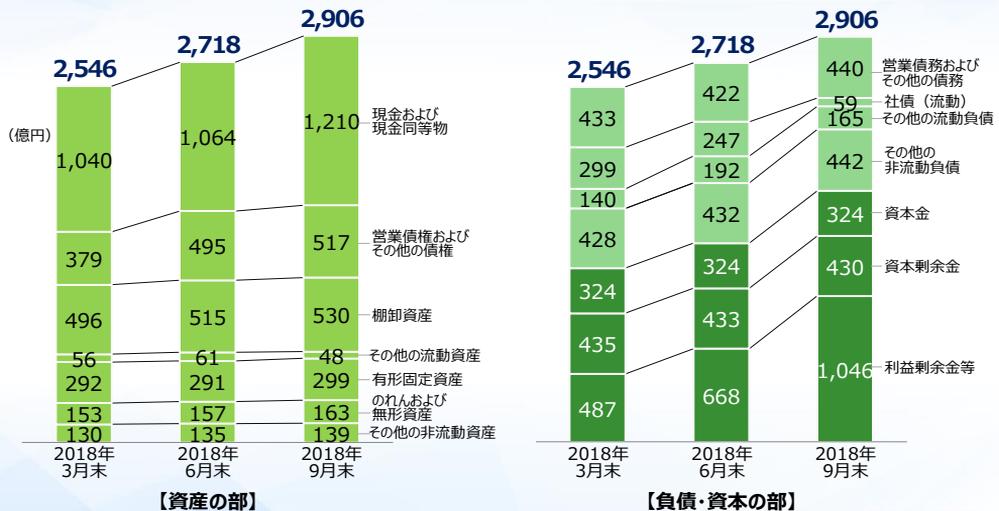
9

○ 2018年度第2四半期の研究開発費等

- 研究開発費 96億円
- 研究開発費売上高比率 13.1%
- 設備投資 16億円
- 減価償却費 13億円

連結財政状態

親会社の所有者に 帰属する持分	1,246	1,425	1,800
親会社所有者 帰属持分比率	49.0%	52.4%	61.9%



ADVANTEST.

○ 2018年9月末時点のバランス・シート

- 総資産 2,906億円
- 現金および現金同等物 前期比 145億円増 1,210億円
- 社債（流動） 前期比 188億円減 59億円
2019年2月転換期限の転換社債の行使が進み、9月末時点の転換率は約80%
- 親会社の所有者に帰属する持分 1,800億円
- 親会社所有者帰属持分比率 前期比 9.5ポイント増 61.9%

アジェンダ

- 2018年度第2四半期決算報告

常務執行役員 藤田 敦司

- 2018年度 事業見通し

代表取締役 兼 執行役員社長 吉田 芳明

ADVANTEST.

CY18年市場予想

	CY17	CY18推定	変化率
SoCテスト市場	約\$2.2B	約\$2.4B (7月時点予想: 約\$2.2B~2.3B)	前年比 約9%増
メモリ・テスト市場	約\$750M	約\$1.0B (7月時点予想: 約\$900M)	前年比 約33%増

- ✓ 18年のテスト市場は順調に推移
- ✓ SoCテスト市場は、広範な品種・顧客でテスト能力の強化が進み、市場を底上げ
- ✓ メモリ・テスト市場は、データセンター関連需要を背景に、DRAM向け中心に堅調に推移
- ✓ 全方位的に需要拡大する中、当社市場シェアは大きく伸長

ADVANTEST.

○ CY2018年の市場予想

- 残り少なくなりましたが、2018年のテスト市場の見方です。
- 米中間の貿易摩擦が半導体需要に与えるマイナス影響について注視してきましたが、ここまで半導体需要は底堅く推移しています。
- 顧客のテスト投資にも大きな変動はなく、順調です。われわれの市場見通しも増額しました。
- 今年のSoCテスト市場は従来2017年と同様の\$2.2B~2.3Bで見立てていましたが、前年比9%増の、\$2.4Bとしました。
- メモリ・テスト市場は、2017年は\$750Mでしたが、2018年は\$1.0Bへ到達すると想定しています。前年比33%の増加と見込んでいます。
- スマートフォン、産業機器、自動車、ディスプレイなど、さまざまな最終機器に使われるさまざまな半導体が高性能化している結果、SoCテスト市場では幅広い顧客でテスト能力の強化が進んでいます。
- メモリ・テストについては、デバイスの需給バランス調整や一部顧客の投資抑制で今後のスローダウンは懸念されますが、少なくとも年内はハイエンド・メモリ向けを中心に、テスト投資が底堅く行なわれる見通しです。
- 4月に公表した中長期経営方針では、「半導体市場が全体的に拡大する中でも、より高性能で、より高信頼性が必要な半導体が伸びていくことが、当社にチャンス」としました。
- まさに18年のテスト市場は、このとおり展開しています。幅広い製品ポートフォリオと幅広い顧客ベースを強みとしている当社にとり、全方位的に需要を取り込める理想的な状況となっています。
- このままいけば、18年の市場シェアは、前年比大きく伸長する見込みです。

FY18業績予想

(億円)

	FY17実績	FY18予想	前年度比		7月時点 FY18予想
			増加額	増加率	
受注高	2,478	2,550	72	2.9%	2,200
売上高*	2,072	2,650	578	27.9%	2,300
半導体・部品テストシステム事業	1,409	1,910	501	35.5%	1,600
メカトロニクス関連事業	359	420	61	17.0%	380
サービス他	305	320	15	5.0%	320
営業利益	245	530	285	2.2倍	345
営業利益率	11.8%	20.0%	8.2pts		15.0%
税引前利益	243	545	302	2.2倍	348
当期利益	181	460	279	2.5倍	278
当期利益率	8.7%	17.4%	8.7pts		12.1%
IFRS第15号適用に伴う 期首受注残の調整		▲30			▲30
受注残	828	698	▲130	▲15.7%	698
為替レート**	1米ドル	111円	110円	1円 円高	105円
	1ユーロ	129円	132円	3円 円安	135円
1株当たり配当額（年間）	32円	75円	43円 増配		—

*売上高合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます。

**FY18下期の前提レートは1米ドル: 110円、1ユーロ: 135円です。FY18上期の実績レートは1米ドル: 109円、1ユーロ: 130円です。

ADVANTEST.

2018/10/30

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

13

○ 2018年度の業績予想

- 上期業績の想定以上の進捗を踏まえ、通期予想を上方修正します。
- 受注高と売上高は、おのこの 350億円を上乗せします。
- 営業利益は 185億円、当期利益は 182億円、上乗せします。
- 第3四半期に確定拠出年金制度への移行に伴う清算益 25億円を計上予定です。それも織り込んだ上で、通期の営業利益を530億と予想しています。
- 下期の業績予想の前提とした為替レートは、1米ドルが 110円、1ユーロが 135円です。通期の前提レートは1米ドルが 110円、1ユーロが 132円です。
- 年間営業利益に対する為替感応度は、1円円安時、米ドルが 5億円増益、ユーロが 1億円減益の見通しです。
- 当社の株主還元は、半期連結配当性向 30%を目安としています。今年度の1株当たり配当額は、上期が 50円、下期が 25円、年間で 75円の予想です。前年度実績は32円でしたので、43円の増配予想となります。
- 第4四半期の状況は非常に見通しにくいものがありますが、今回の売上高予想 2,650億円は、過去に最高売上を記録した2000年度以来、18年ぶりの更新を目指すものです。
- 通期の1株当たり利益は約230円、ROEは30%弱の水準となると予想しています。

FY18重点施策

■ 事業成長に向けて

- ✓ 2018年6月に、半導体テストに関わる事業のグローバル統合を実施
- ✓ 新組織の下、AI、5G通信、ADAS等の有望テーマでの競争力を強化
- ✓ 中長期の企業価値創造の源となる「技術」と「人財」を強化

■ 投資等 FY18見通し（期初計画から変更なし）

- ✓ 研究開発費：350億円（FY17実績：335億円）
- ✓ 設備投資：70億円（FY17実績：54億円）
- ✓ 減価償却費：55億円（FY17実績：50億円）

ADVANTEST.

○ 2018年度重点施策

- 中計1年目となる18年のシェアは、良い数字になりそうです。これを一過性のものにせず、中長期にわたってハイレベルな市場シェアを確保し続けることができるよう、成長戦略を推し進めていきます。
- 当社の中計は、需要がシクリカルに推移する市場にあって、まずシェアを改善していくことを重視した内容になっています。
- それを具体化すべく、6月に社内のテスト事業部門をグローバルに完全に統合し、全世界で1つの組織にしました。大きく変化する顧客のテスト要求に対応できるようグローバル対応力を強化したものです。
- この組織を成長基盤とし、AI、5G、ADASといった、今後の社会的イノベーションを支えるテスト・テクノロジーを提供していきます。
- 信頼性確保のためのテストは、一層の高度化が見込まれます。また中国メモリ市場の立ち上がりも、当社のチャンスと捉えています。
- 競争力強化のための投資は積極的に行なっていきたいと考えています。
- 4月に公表した長期経営ビジョン「グランドデザイン」で挙げたように、当社の現在のコア事業領域だけではなく、その前後にある工程、つまり設計・評価プロセスやシステムレベル・テスト、AIを使ったクラウド上でのテスト・テクノロジーへの展開を見据えた成長投資に、足元積みあがってきた現金を活用していきたいと考えています。
- 生産状況について少し触れますと、一部製品では顧客要求に追従できていないものもありますが、だいぶ落ち着いてきました。今後は、コスト競争力強化へ重点を移していきます。

FY18見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム
売上高推移（億円）



ADVANTEST.

2018/10/30

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

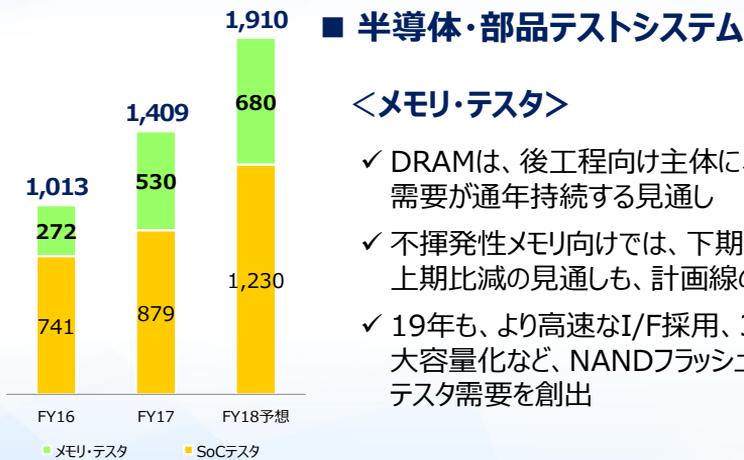
15

○ SoCテスタ事業の今期見通し

- スマートフォン台数成長が鈍化している環境ではありますが、半導体デバイスやそれを使う最終セット品の数量増加のみが、テスト需要のドライバーではありません。
- 今年の当社のSoCテスタ事業は、半導体技術の進化や変化の恩恵を幅広く受けることができます。
- 18年は、スマートフォンやAIサーバーに使われる半導体の高性能化や微細化が進展し、信頼性強化ニーズが拡大しました。またテストの複雑化、テストタイムの長時間化が進んでいます。
- 昨年来強い状態が続いているディスプレイ・ドライバICのテスト需要も、現状の勢いが2019年も続いていく見通しです。
- テスタ市場の変化として、顧客は従来以上にテストに真剣に取り組んでいます。信頼性確保という社会的要請が背景にあります。

FY18見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム
売上高推移（億円）



ADVANTEST.

2018/10/30

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

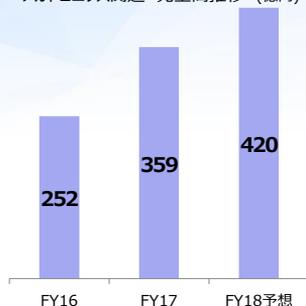
16

○ メモリ・テスト事業の今期見通し

- DRAMでは、データセンター用DRAMへの強い需要を背景に、DRAMテストの需要が安定的に続く見通しです。
- NANDをはじめとする不揮発性メモリの方は、下期は上期に比べて需要減する見通しです。とはいえ、これは4月、7月の段階からある程度想定していた通りです。
- メモリ市況の悪化に伴うメモリ・テストの投資調整は、間違いなく到来すると思いますが、底はそれほど深くない調整にとどまる、と考えています。過去20年の間に起きたような、大きな落ち込みはないと考えています。
- 19年以降、メモリ業界では、新ファブの建設が相次いで行われていく予定です。また各種メモリの大容量化や高速化に向けたチャレンジも継続して行われていくと思います。これらはすべて、メモリ・テストの需要にプラスです。
- また生産効率向上のためのテスト置き換え需要も、今後一定量を見込みます。

FY18見通し（事業別）

メカトロニクス関連 売上高推移（億円）



■ メカトロニクス関連

- ✓ 上期はメモリ・テスト用のデバイス・インタフェース、テスト・ハンドラの需要が好調
- ✓ 下期もメモリ向けを中心に、上期並みの水準の需要を見込む

サービス他 売上高推移（億円）



■ サービス他

- ✓ 顧客の堅調なテスト稼働状況に沿って、フィールド・サービス売上の伸びを見込む

ADVANTEST.

○ メカトロニクス関連、サービス他事業の今期見通し

- メカトロニクス関連事業は、メモリ・テストと事業関連性の高いメモリ・ハンドラ、デバイス・インタフェースの需要が上期好調でした。下期も、上期に近いレベルの需要を見込んでいます。
- サービス他事業では、フィールド・サービス事業が順調です。リース／中古販売ビジネスは伸び悩んでいますが、それを補うサービス収入の伸びを見込んでいます。

サマリー

- ✓ 18年のテスト市場は順調に推移
- ✓ これまで培ってきた競争力ある製品ポートフォリオと顧客ベースの広さが、18年の市場シェア大幅伸長として結実
- ✓ テスタ市場の変化
 - ①半導体が搭載されるアプリケーションの拡大
 - ②半導体の信頼性に対する社会の要請と顧客の取り組み
- ✓ 「技術」と「人財」への投資強化で、事業と企業のサステナブルな成長を具体化

ADVANTEST.

○ サマリー

- 2018年のテスト市場は、想定以上に堅調に推移しました。上期は、SoCテスト、メモリ・テストとも、大きく業績を伸ばすことが出来ました。
- 結果として通期の売上・利益の見通しを引き上げることにしました。当社過去最高売上高の実現を目指します。
- 顧客基盤強化策と、製品ポートフォリオ戦略がかみ合い、市場シェアを上げることができそうです。
- 最後は中長期のアドバンテストの経営についての考えで、締めくくります。
- 今年環境は良好ですが、テスト市場が過去と同じ様に、需要増加局面と減速局面を今後何度も迎えることと思います。ただ、需要の波の大きさは過去と変わってきています。
- 一年半ほど前に、「テスト市場に変化の兆しあり」と、申し上げました。
- その理由は、半導体の用途が多様化していることに根源があると考えています。かつてのように、パソコンの需要変動がテスト市場に増幅された形で伝わり、テストの需要が大きく振幅する、という事業環境ではもはやなくなっています。
- また、半導体の信頼性確保に対する社会の要請を、顧客は真剣に受け止めています。
- そうした中で、あらゆる半導体のテスト需要を取り込むことが可能なプラットフォームを持つ当社は、成長機会の獲得面で優位にあるだけでなく、業績変動の波も減じられる事業構造になりつつあると感じています。
- 「グランドデザイン」で示した通り、半導体バリューチェーンの中で、当社の活躍できるフィールドはまだまだ広がられると思います。
- そのためやるべきことは、まだまだたくさんあります。成長を支えるための社内基盤の充実が重要になります。「技術」と「人財」への投資を進め、価値創造力を高め、持続的な企業価値の拡大を図っていきます。

ご注意

◆会計基準について

本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準（IFRS）に基づいて作成しています。

◆将来の見通しに関する記述について

本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。

これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。

◆本資料の利用について

本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、各国の著作権法、特許法、商標法、意匠法等の知的財産権法その他の法律及び各種条約で保護されています。事前に当社の文書による承諾を得ない限り、法律によって明示的に認められる範囲を超えて、これらの情報を使用（改変、複製、転用等）することを禁止します。

ADVANTEST.